

日本の税の公平さについて考え、将来に向けて納税者としての意識を高める。



南陽市立沖郷中学校教諭 3学年 冨水 研大

実施年月日：令和5年1月 30名

1 実践計画・指導のねらい

生徒たちは、教科書で説明されている所得税や消費税等は理解できる。しかし、その他にも様々な税金が存在していること、社会に目を向けると国民の税負担増加に関わる政策が打ち出されていること等、自分が将来納税者となった時に、どんな税を、どれくらい負担するのかということまでは思いをめぐらせていない。少子高齢化により若者の税負担が大きく、昨年末には所得税増税の政策に関するニュースもあり、未来を担う生徒たちには嫌な印象が強くなる。そこで、税金が具体的にはどのようなことに使用されているのか、なぜ増税が必要なのか等を理解したうえで、「公平な税負担」「将来の自分たちの税との向き合い方」について考えさせ、社会生活を成立させるための納税の大切さに気づかせたいと思い、単元を構成した。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・様々な税金が存在し、集められた税金をもとに財政が行われているということを理解する。	○ <u>財政とは何か？（税の種類・税に支えられた財政について）</u> ●国税、地方税、直接税、間接税等の種類があり、社会保障をはじめとする私たちの生活を支えるために使われていることがわかった。 ●少子高齢化が原因で若者の税負担が増えていくため、社会保障制度を維持していくことが大変である。 □使用教材名 ・新しい社会 公民（東京書籍） ・NHK for school アクティブ10 公民「税金、安けりゃイイの？」 ( <a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120496_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120496_00000</a> )
2	・日本の税制度が国民にとって公平なものかどうかについて、資料をもとに考えて自分の意見をまとめ、交流する。 	○ <u>日本の税金は公平なものになっているか？</u> ●所得税に注目すると不公平に感じる。個人が頑張って得た収入なのだから、同じ税率でもいいのではないかと？ ●収入などが少なく生活が苦しい人に一律同じ税率の税負担は苦しいと思う。 ●所得税等は個人の所得額に応じて負担が決まっているため公平だと思う。 ●所得税のように税率が異なる税金もあれば、消費税のようにみんな同じ負担の税金もあるので、総じてみるとうまくバランスがとれており、公平だと思う。 □使用教材名 ・新しい社会 公民（東京書籍） ・私たちの暮らしと税 令和4年度版
3	・これまで学習したり、まとめたりしたことをもとに納税者としてどのように振る舞うか、これからの税制度がどのようなになると社会がよくなるかを考え、まとめる。 	○ <u>私たちはどのように税と向き合っていけばいいのか？</u> ●入湯税やたばこ税等、様々なところに税金があることを知った。大人になるまでに知識を増やしていきたい。 ●今の税制度に不満はないが、日本の未来や自分の老後を考えると、もう少し税負担を増やしてもいいのではないかと考えた。 ●北欧の国のように、社会保障が充実するなら税金が高くてもいいと思う。 ●納めるべき税金はきちんと納めていきたい。しかし、高齢化が進んで、若者の税負担は増えていくので税の仕組みの見直しも必要だと思う。 ●これからの税制度について、若者の考えが反映されるためにも選挙等を通して国に意見を伝えていくことが大切だと思う。 □使用教材名 ・私たちの暮らしと税 令和4年度版 ・自民党 HP ニュース ( <a href="https://www.jimin.jp/news/policy/204903.html">https://www.jimin.jp/news/policy/204903.html</a> )

【指導のポイント】≪1時間目≫

教科書を参考にしながら、プリントを用いて財政について簡潔に学習し、まとめた。さらに、消費税のような誰もが同じ税負担のもの、所得税のような個人で税負担が異なるものについて、それぞれの意見をまとめさせ、2時間目の学習につなげさせた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

生徒たちは、自分たちに身近な「消費税」や「所得税」をイメージして本時のめあてに対する答えを考えていた。そこで「私たちの暮らしと税」を参考にすることで、様々な税金があることを知り、思考がより深まった。

【指導のポイント】≪3時間目≫

めあてについて考える際、これまでの学習を通して、「これからどのように税を納めていくか？」「今の税の制度について考えたことをどのように活かしていくか？」「税の制度について『もっとこうするべきだ』と考えたことはないか？」等の視点を具体的に与えて考えさせた。  
また、昨年末に出た増税に関するニュースを提示し、税金をより身近に考えさせようとした。



3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 動画を通して海外の税制度について学ばせたり、税負担の仕組みの公平さについて考えさせたりしたことで、生徒の中には現在の税制度について様々な意見を持つ生徒も現れ、考えが深まった。
- ◎ タイムリーなニュースを活かし、昨今の税負担増加や「復興特別所得税」等の普段耳にしない税について考えることができ、税制について今まで以上に深く考えさせることができた。
- ◆ 入試前ということもあり、十分時間をかけてディスカッションをさせることができなかった。経済分野後半の単元なので、余裕をもって計画すべきだった。(その他)「私たちの暮らしと税」を使うことで、教科書では説明されていない様々な税について詳しく知ることができた。そのため、それぞれの税金がどんな目的で、どんな人から納められているのか等、税金について視野を広げてから考えさせるとより深い話し合いになるように思う。